

専門分野はスポーツ社会学。現在の研究テーマは、19世紀末から20世紀初頭にかけてのアメリカ合衆国のレクリエーション運動について、特に米国シカゴ市の労働移民と公的レクリエーションの問題を歴史社会的に研究しています。

1. 専門演習の目標

スポーツをめぐって生じた様々な大衆社会現象や事象を問題として捉え、各自が文献資料や著作物を読み込み、分析・発表し、議論を通じて互いの考えを深めていくこと。そして、問題の本質を20世紀という枠を持つことで生活の実態や社会構造の理解から考えていけるような力をつけること。また、それをスポーツを捉える思想的な考察にも結びつけていければと考える。

2. 専門演習で扱う課題と内容

資本主義の発達が急激に進行する20世紀は、大量生産、大量流通、大量消費を根底に、またメディア技術やコミュニケーション様式の変化にともなって様々な大衆社会現象や社会問題を生み出した。また、東西冷戦構造のなかで社会主義諸国においては独自の社会とスポーツが存在し、高い競技成績を残すと同時に多くの問題が指摘されていた。19世紀後半から約100年間に様々な形で存在し、また変化してきた具体的なスポーツ種目やリーグ・組織を対象としたり、国家や地域を特定したりし、そこに存在した制度やスポーツをめぐって起こった現象・事象を自由にテーマとして選びながら研究を進めていく。問題としては様々なものが考えられるが、大きくは「スポーツと商業主義」「スポーツの見世物化」「スポーツにおけるテレビ支配」「市場スポーツの拡大と人種・民族」「スポーツによる大衆動員・大衆操作」「国家主義スポーツ」「国民の健康・社会福祉とスポーツ」「組織的なスポーツ・ドーピング」「スポーツ・ナショナリズム」などの内容が考えられる。

3. 授業の進め方・内容

3回生前期：文献学習と研究対象・テーマの絞り込み。
3回生後期：各自のテーマ研究と他大学との合同ゼミ合宿研究会での報告。

4回生前期：卒業論文の構想発表と討議。

4回生後期：卒業論文指導（中間発表と討議）。

4. 必要とする知識

スポーツの研究が政治・経済・社会の領域で総合的な知識が必要であることを考えると、社会科学全般に幅広い知識や興味を持っていることが望ましい。

5. 関連する分野・科目・知識

社会学、歴史学、経済学、政治学、社会福祉学などの社会・人文科学全般。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

読み合わせをするもの、各自のテーマによって独自に参考にすべきものは適宜指示する。

7. 独自に付加する選考方法

面接を行う。

8. 受講生に望むこと

ゼミにおいては教員や仲間との人間的なつながりを大切にし、レクリエーション的な行事への参加も含めたゼミの諸活動や研究・学習に惜しみなく時間・労力を割くことを望む。